

21歳で急死した名古屋大法学部3年(当時)の伊藤康祐さんはブログに大量の文章を残していた。憲法や権力、オバマ米大統領についての考察、映画評や書評、英語速読法……。硬軟交ぜた話題豊富な世界に「オリジナリティーある発信をしていたことに驚いた。でも、更新しないと削除されるかもしれない」と母の順子さん(51)。今春、一周忌を前に「個独のブログ」にまとめ出版した。

ブログは息子の生きた証し

最後の更新

2009年3月27日午後4時39分。ブログは東京、仙台への旅行記を「果たして牛タンは食えるのか! 怒涛の中編へ続く!」と結んだまま二度と更新されなかった。2日後、息子は風呂場で倒れていた。

母親がまとめ出版 印税は留学生支援基金に

4歳のころ、風呂の水面をボロンボロンと指ではじきながら「いい音がするからピアノを弾いて歌ってあげるね」と言っておいてくれた「音楽会」。純粋な子どもの世界を見せてくれたのがうれしかった。幼稚園のころからワープロで遊び始め、次第にパソコンに親しんだ。親子で決めたのは「パソコンを30分使うなら、本も30分」というルール。ゲームやホームページ作りをしながらも、息子は膨大な量の本を読んだ。死後、存任を知らされたブログは07年3月に始まり、印刷するとバイン

ダー5冊分になった。

100年分の人生

米国のロススクールへの留学が夢で、英語上達の極意を「英語の勉強をしないこと」と説く。すなわち、興味のあることを「『英語で』勉強するの」が「一番の近道」と書き、「知らない」と損する

取材メモ

伊藤康祐さんはブログ以外にも自身のパソコン内に「私の使命は、知性と勇気によって世界をプラスの方向へと変革することである。人を憎まず、常に誠実たれ」と書き残していた。母、順子さんは「あの境地にはまだ立てない」と言うが、子どもの世界観を大切に

尚風

〈随時掲載〉



出版した「個独のブログ」を手にする、亡くなった伊藤康祐さんの母、順子さんを

「優しい書き方で意見は言うけど角は立てない。いつもの会話通り。康祐は生を存分に感じて生きたのだと思った。21年と4カ月だったけど、100年分生きたと思いき、書店の店長に手紙を書き、息子の携帯電話にア

康祐さんのブログから

英語がしゃべれるようになるには、英語でコンテンツを必要とするのだから、英語を覚える必要がある(2008年11月13日)

自分の弱点を認めてそれと闘ってきたから、今こうして自信があるのだと強く思う。自信の多様な人々の生きている理由を認める必要がある(08年11月30日)

彼(オバマ米大統領)のコミュニケーション術は、「I」と「You」と「We」からなる。「I=セルフブランディング」と「You=聴衆の引き付け」、そして「We=一体化」だ(09年3月8日)

人々は「孤独」ではなくとも「個独」なのではないか。「オンリーワン」は、分かち合えない「個独」の叫びなのではないか(09年3月15日)